

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101554		
法人名	社会福祉法人 清潮会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	長崎県西海市崎戸町蛸浦郷17番26号		
自己評価作成日	2017/3/13	評価結果市町村受理日	平成29年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成29年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで海が見える場所にあり、景色や環境は懐かしさがある。オープンキッチンとなっている台所からは、食欲を誘う良い匂いがいつも漂っている。それに誘われるかのように、リビングには自然とご利用者が集まり、職員との会話も弾んでいる。4年程前より、笑いヨガを取り入れており、毎日笑顔が絶えず、家庭的な雰囲気の中で、明るく楽しくゆっくりにモットーに、一人一人の出来る事をして頂きながら、ご利用者の方々・職員がお互いに助け合い、又、ご家族の協力も得ながら、その人らしい生活を務める様、サービス提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人間性を尊重し、礼儀と節度をもって、自分には厳しく人には寛容でありたい」という法人理念を支援の根本としている。また「明るい挨拶」を年間目標に掲げ、利用者や地域住民とも笑顔の繋がりを大切にしている。地域からは自然災害対策の助言をもらったり、敬老会への誘いがある。地域住民は事業所を気に掛けており、利用者を見守る地域の目となっている。事業所は、研修が充実し、職員は各種委員会に属しながらサービスの質の向上に繋げている。レクリエーションのひとつを通して、会話が困難な利用者の表情が豊かになり、会話ができるようになった事例もある。アセスメントでは、利用者の生活歴を細かに収集し記録しており、人間性を大切に一人ひとりのできることを検討し支援している。本人の尊厳を重視し、食事介助のエプロンやポータブルトイレを使用せず、さりげなく寄り添う支援に努めており、利用者職員との笑顔が絶えない家庭的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念の他、地域密着サービスとしての理念は共有している。事業所独自の職員理解を挙げており、全職員で共有・実践に繋げている。	法人理念を基に、地域密着を踏まえた事業所理念がある。新人職員には理念の一部「節度」の意義を伝えている。28年度は目標に「明るいあいさつ」を掲げた。地域との信頼関係の中で、利用者が安心して、笑顔で生活できるようなケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員全員が、積極的に挨拶に努めている。地域の行事には、利用者と共に参加し、交流に努めている。	広報誌を行政窓口置き事業所の周知を図っている。自治会長や民生委員から、地域情報を得ており、花火大会や祭りなど行事に職員と利用者が一緒に出掛けている。地元の敬老会への招待もある。職員は日頃から笑顔で近所づきあひしており、地元住民と繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時等、職員が行っている認知症の方への支援内容等伝え、出来る限り地域に役立つ事が出来る様に、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事報告・職員が受講している研修内容報告、他ご利用者の体調や事故の報告も行っている。事業所の広報誌も、市の窓口に置かせて頂く事が実現する等、多くの意見を取り入れたり参考にして、質の向上に努めている。	年6回、規程のメンバーで開催している。事業所の行事や状況、研修受講などを報告している。事故報告では原因及び対策を公表し、運営の透明性を図っている。参加者から外出先候補や災害対策の意見を受け、運営に活かしている。ただし、現在、参加している家族の固定化が課題である。	運営推進会議の内容を家族に伝え、事業所の取組を理解して貰うことで、より多くの家族が参加できる工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の方に参加をして頂いている。その場で情報の交換を行い、他に知りたい事がある時には、直接電話をして、その都度伺ったりの連携に努めている。	市担当課と手続きやホーム近況報告、不明点の問い合わせ、適切な返信や対応を得ている。行政からの研修案内は職員も積極的に受講している。最近では、自然災害訓練について地域で想定される災害について情報を得るなど、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が設置されている。法人で年2回研修を行っている。委員を中心に、全職員がご利用者に対して、声掛けや口調に考慮し拘束のない支援に努めている。	法人の身体拘束委員会に、事業所職員が所属している。法人研修では、具体例を上げて拘束に該当するか否かを検討している。研修に参加できない職員には管理者が伝え、改善方法や取組を検討している。玄関施錠やセンサーマットはなく、見守り中心の拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で「身体拘束委員会」が設けられている。その中に、虐待も含まれている。全職員で虐待に対する意識を高め、支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者となる方はおられないが、以前は生活保護を受給される方がおられ、その制度に関する資料を職員で見たり、説明に関しては市からの説明時に、ご家族に同席をお願いして、一緒に説明を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、ご家族に重要事項説明を十分に行うと共に、玄関にも掲示している。疑問や不安がある場合、直接説明したり電話でもお話しして、理解して頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の方とは、日頃の何気ない会話等でお気持ちを伺い、又、表情・口調・行動等でも、お気持ちを知る様努めている。それはご家族の方でも同様であり、気兼ねなく話せる雰囲気作りに努めている。	利用開始時に相談窓口について文書を用い説明しており、意見箱も設置している。職員は、家族の面会時や電話を活用した会話の中や年1回全家族が集まる行事の際に会話した中から、思いを汲み上げている。管理者と職員は家族の希望を真摯に受け止め、サービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、職員一人一人の思いを知る様努め、職員会議の時にも意見や提案を聞いて、働きやすい職場作りに努めている。	職員は毎月の職員会議や日々の申し送り等で意見・提案している。法人では個人面談を実施しており、職員の年間目標と評価を確認する機会がある。法人本部会議等で、管理者は事業所の状況を報告しており、炊飯器等の備品の購入は、職員の意見を参考にしている。シフトの希望も優先し、職員が働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の努力や目標・実績を把握して、やりがい等各自が向上心を持って働ける環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は極力受講するに様に考慮している。法人内では、各委員会が主催する研修があり、全職員が参加出来る様に工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の時に、同業者である社会福祉協議会の職員の方にも、参加して頂けており、情報の共有を図っている。他、近くのグループホームの方が何度か来所されており、情報交換させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃からご利用者の方と接する機会を多くして、何気ない会話の中から、困っている事・不安な事を探り、又、話しやすい雰囲気作りを行い、良い信頼関係が生まれる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より、何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。又、何気ない会話の中から、ご家族の本当の思いの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の本当の思いを知った上で、十分な話し合いを行い、今一番必要な事を全スタッフで見極めていける様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフがさせて頂いているという思いを常に持ち、ご利用者の方に接する事で、気兼ねなく毎日を過ごして頂ける様努めながら、暮らしを共にする同士の良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や他電話等で、ご本人の様子をお伝えしていき、思いを共有出来る様努めている。行事ごとにご家族に参加をお誘いしたり、いつでも気軽にご本人に会いに来れる様な雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の生活歴を把握する様に努め、地元付近をドライブしたりしている。その時、馴染みの方と偶然ある事もあり、懐かしそうに話されてもいる。	利用開始時、本人や家族から生活歴を聞き取ったり、日常会話から得た情報を集め、本人の生活歴を記録している。馴染みの場所へのドライブや買い物は職員が支援し、墓参りや自宅への外出は、家族の協力を得ている。病院待合時の顔見知りとの交流や家族・知人の訪問など、馴染みの人との交流を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で話し合ったりされ、支え合い過ごされている。又、職員が間に入り、共通の会話となる様な事柄を提供し、ご利用者同士の関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも、その後のご様子等連絡を頂いたり、手紙も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にも、今までの生活歴等面会時ごとに尋ね、何気ない会話の中から家族の思いを知る様努めている。ご利用者に対しても、言葉に出来ない本当の思いを、日常の行動や表情等で汲み取れる様、考えて接しさせて頂いている。	利用者の思いを汲むために、職員はソファや居室などで、ゆっくり寄り添って話すよう心掛けている。利用者の表情に現れた意向を見落とさないように目配りし、毎回アセスメントを作成するときにも、改めて希望や想いを汲んでいる。得た情報は個人記録などに記入し、職員は情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、ご家族に詳しく生活歴をお伺いしたり、関係機関にも情報を頂き、それらを把握した上でケース会議の中で情報共有を図り、日々の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子は記録に残し、いつもと違う事が起こると詳細に記載すると共に、申し送りやカンファレンスノートにて、全職員で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で話し合い、主治医にも情報を頂いたり、ご本人やご家族の意向をその都度伺いながら、介護計画を作成している。1~3ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しもを行っている。	利用開始時、計画作成担当者が本人と面談しアセスメントを行い、暫定プランを作成している。新規は約1ヶ月程で見直している。面会時や電話で家族の意向を聴取し、6ヶ月・1年で計画を作成し、同意を得て支援している。職員カンファレンスや主治医の意見を取り入れており、支援記録は実践状況がわかりやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果・気づき等、個人記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かす様に、努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ご本人・ご家族の状況に合わせたニーズに対応している。それらに合わせた柔軟なサービスの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については市に尋ねたり、他は運営推進会議の参加者からも情報を頂ける様、努めている。地域の方には挨拶を行い、施設の存在を知ってもらい、何かの時にはご協力を頂ける様、働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望される先生がかかりつけ医になっている。2週間に1回の定期受診、又は往診では、医師に直接ご本人を診て頂き、良い関係作りに努めている。ご病気の内容によっては、医師・ご家族を交え、今後の話し合いを行い、適切な医療を受けられる様に、努めている。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望を優先している。通院受診に家族対応ができない時は職員が同行し、受診結果を面会時に報告している。往診時は、利用者の些細な変化も報告し、適切なアドバイスを受けている。職員は情報共有し、健康管理に努めている。緊急時、協力医の指示で救急搬送の手配をする手順を職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は、主治医に相談している。ご本人の些細な変化も主治医に報告し、必要なアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医には、ご本人の状態を常に報告しており、入院となった場合は、ご本院に会った病院の情報を主治医より頂いている。入院中には、その病院関係者と密に連絡を取り合う等、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合を考え、早い段階からご本人・ご家族・主治医と話をさせて頂いている。	利用開始時、事業所の終末期の在り方について、看取りをしない方針である旨、家族に口頭で伝えられている。利用者状況により、主治医、家族、事業所で話し合いを重ね、家族の要望をもとに医療施設や他施設へ紹介している。重度化や終末期の事業所指針は明文化しておらず、家族の同意が確認できる仕組みがない。	重度化及び看取りについての指針は、どのような状況であっても家族と共有できることが望ましい。そのため、終末期の在り方について事業所方針を文書化し、家族に説明するとともに署名を得るなど検討・取組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において、ご利用者の急変や事故発生時についての研修が、実施されている。少しでも実践力を身に付け様と、日頃より努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は月1回必ずご利用者を交え、行っている。夜間の訓練には、地域の消防団の方にも参加して頂いた。災害時の備蓄として、水やビスケット等も準備し、災害時の対策に取り組んでいる。近隣の方へのご協力も、いつもお願いさせて頂いている。	消防団及び地域住民が参加し、消防署立会いの夜間想定火災訓練を行っているほか、毎月日中想定火災自主訓練もある。自然災害について、地域住民の意見を参考にしており、備蓄や非常持ち出し品も整備している。自然災害マニュアルはあるが、周辺で想定される具体的なマニュアル作成は検討中であり、訓練もこれからである。	地元有識者の意見を基に地形に照らし合わせ、地域で想定される自然災害について、具体的なマニュアルを作成するとともに、避難経路を利用した訓練実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して目上の人であるという意識を常に持ち、接している。トイレ誘導時には周りに聞こえない様に配慮して、誘導させて頂いている。他、誇りやプライバシーを損ねない声掛けを意識して、全職員で努めている。写真掲載についても、プライバシーを考え、ご本人・ご家族の希望に沿って掲載している。	職員は、理念の一部「人間性の尊重」を基に、敬う気持ちで利用者へ接している。羞恥心に配慮し、入浴は同性介助である。失禁など失敗時は、周囲に気付かれないよう、さりげなく声掛けし誘導して対応している。言葉遣いの研修も受講している。個人情報事は事務所で保管し、職員の守秘義務も周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをさせて頂く前には、必ず声を掛け説明を行い、希望をお伺いしている。他、仕草や表情から思いを汲み取り、自己決定に基づいた支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室を好まれる方には自室で、リビングで皆さんと一緒に過ごされるのを好まれる方は、リビングで過ごされている。散歩やレク等、その日のご気分に応じ、ご本人のペースを優先し支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類・小物は、入所時にご自宅にある物を持ち込まれている。ご本人にも着用したい衣類をその都度伺い、来て頂いている。ご家族からも、ご本人の好まれる衣類等の贈り物がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、何を食べたいかも尋ね、メニューに希望の物を取り入れている。硬めが苦手な方には柔らかく提供したり、お一人お一人に応じた対応をしている。	調理担当職員が、利用者の嗜好や旬の食材を用いた献立を作成している。対面式のキッチンで、調理の様子を見たり、食材の下処理を手伝う利用者等、家庭的な雰囲気である。利用者の咀嚼状況にあわせた盛付けで、自力で食事できるよう工夫している。誕生会やお節や七草がゆなど季節行事と共に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに個人記録に残し、栄養・水分摂取量は把握している。吸い物やお茶を好まない方へは、好みの飲み物にて水分確保に努めている。自室のペットボトルに、お茶・白湯・ご本人の好まれる物を入れて、いつでも飲める様に置かせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促し行って頂いている。ご自分で難しい方へは、職員が義歯を磨いたりのお手伝いをさせて頂いており、口腔内の清潔保持に努めている。義歯を使用されている方は、就寝前に義歯をお預かりして、一晩入れ歯洗浄剤に浸けて、朝には清潔な状態の義歯を毎日おはめて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら、その人に合った誘導・促しを行う様、努めている。尿意がない方も、その方のタイミングを計り誘導し、トイレでの排泄を心掛け支援している。	日中トイレ座位での排泄を支援している。また、排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンや支援方法を検討し、時間や仕草をみてトイレへ誘導している。ポータブルトイレを使用することもあるが、本人の思いを汲み、ポータブルトイレからトイレ誘導になった事例がある。布パンツのみやパッドの使用軽減などの改善例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給や食物繊維の多いメニューを心掛けている。食前に笑いヨガや口腔体操を取り入れ、楽しく笑いながらお腹や体を動かして頂いている。又、主治医とも連携し、服薬の調整を行う。便秘の原因や及ぼす影響についても、十分理解している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日お湯を溜め、ご希望される方は入浴して頂いている。入浴の断りがあられる方には、時間をおいて再度声を掛け、納得されたお気持ちで入浴を楽しんで頂いている。	毎日午後に入浴を準備している。利用者は6人であり、1日に2人程でゆっくりとした入浴時間を確保している。入浴準備後、利用者に声を掛け、拒否時は強制せず日や時間を変えている。車椅子利用者も湯船に入れるよう、職員体制を整備している。シャワー浴で対応することもある。柚子湯や菖蒲湯など季節を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマ着用については、それまでの生活習慣を尊重し、ご本人の安心されるスタイルで休んで頂いている。日中は休息出来るスペースを設けており、好きな時にゆっくりと休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、全職員が保管場所を把握しており、いつでも見れる状態になっている。薬の変更の際には、個人記録・カンファレンスノート・口頭で、確実に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ好まれる仕事をお願いし、張り合いや喜びが持てる様、支援している。笑いヨガやレクでは、職員が雰囲気作りを行う事で、皆さんで笑い合い楽しく体を動かされてもいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社等へ、希望に沿って散歩に出掛けたり、行事を通して地域の方から声を掛けて頂き、夜に花火や盆踊りに出掛けている。ご家族の方の協力で、墓参りや自宅外泊したりと、普段行けない所へ出掛けられている。	天候や利用者の体調に配慮しながら、外出を支援している。近所の神社まで、利用者と一緒に散歩したり、花火や盆踊り等、夜の地域行事にも職員が付き添い、一緒に楽しんでいる。参加が難しい利用者には庭からの見学を支援している。花見など四季折々のドライブもあり、利用者が戸外に出る機会を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がご家族へお任せしていたり、金銭管理が困難であり、ご家族希望で所持していない方が殆どである。ご利用者が買いたい物がある時には、その都度ご家族に相談し、立替金で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が番号を押し、掛ける事は困難だが、いつでも電話出来る様にしている。ご利用者から申し出がなくても、時々こちらからご家族へ電話をし、ご本人と変わったりしている。手紙を描きたい方へは、便せんと切手を用意し、いつでも出せる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンと繋がったリビングは、全体的に明るく外からの騒音はない。食事準備の時に出る音や匂いに囲まれ、職員や他利用者様の会話・姿が見渡せる、生活感が漂った心地良い空間となっている。又、季節を感じて頂ける様に、季節の花を飾っている。	季節の花を生け、壁には利用者の絵手紙作品や手作りカレンダーを飾っている。広々としたリビングは、程よい採光で落ち着きがある。対面式のキッチンのあるリビングは、利用者職員との会話が増え、家庭的で安心して過ごせる空間となっている。職員による毎日の清掃に加えて、汚れのたびに清掃しているため清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓辺にはソファや椅子を置き、どこでも座れる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力して頂き、以前から使用している家具や置物を持ち込んで頂いている。趣味の作品や家族の写真を飾られている方や、ベッドの近くに椅子や衣装ケースを置いている方等、さまざまである。ご本人様が居心地良く過ごせる様にしている。	事業所の暮らしに馴染めるように、持込みは自由である。利用者作品や家族写真などを飾り、趣きがある。ベッドなどの配置はこれまでの生活状況に近くなるよう工夫したり、ベッド周りの手が届く位置に日用品を置いて、利用者が自立して居心地よく過ごせるよう支援している。職員による清掃や空調管理で、快適な居室を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室・洗面所等に、利用者の使い勝手を考慮した手すりを設置している。ご利用者によっては、室内でも手すりの設置を考え、必要な場合は設置する等、自立や安全に繋がる配慮を行っている。		